

歴博くらしの植物苑だより

第11回『日本の植物文化を語る』12月16日(土) 13:30~ 本館講堂

「花木文化の粹—ツバキとサザンカの世界—」 箱田直紀(恵泉女学園大学)

第95回『くらしの植物苑観察会』1月27日(土) 13:30~ くらしの植物苑

「水田と焼畑」 西谷 大 (本館研究部考古研究系)

冬の華・サザンカ 開催中

冬の華・サザンカの展示も、サザンカ群・カンツバキ群が花盛りを迎え、ハルサザンカ群も咲き始めてきました。苑内には、ヤブツバキ・シロバナヤブツバキも咲き始め、地植えのサザンカ群・カンツバキ群と合わさってツバキロードを作っています。ヤブツバキはこれから2月くらいまでお楽しみいただけます。サザンカ群・カンツバキ群・ハルサザンカ群についてはNo.134で、今回はタゴトノツキ群とヤブツバキ群について、

・タゴトノツキ群：樹形は立性で横にも張る、花は小輪で白色一重咲きで、花弁はばらばら散り、雄ずいはついたまま散る。



・ヤブツバキ群：樹形は立性から横張性で、花の大きさはさまざまで紅は基本、一重咲きから千重咲きと色々ある。花弁と雄ずいはお互いについたまま落花する。写真は園芸品種のシロバナヤブツバキです。



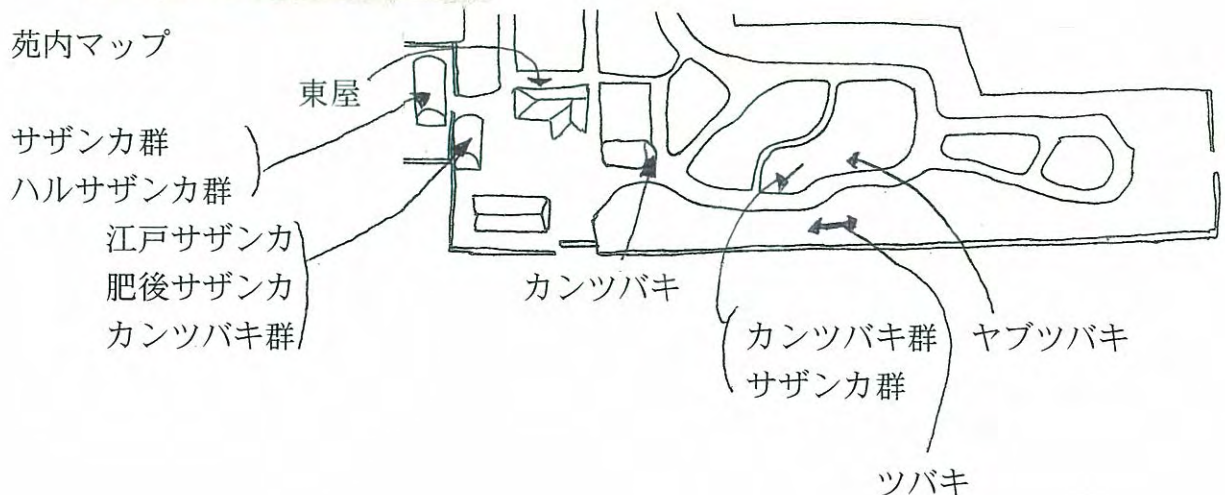
今一番栽培されているもの：



カンツバキ群の勘次郎(立寒椿) 高速道路・公園などの植え込みに多い。

常緑で赤い花を咲かせます。久留米で大量に栽培され、全国に植栽されている。

苑内マップ



ハルサザンカ（ツバキ科ツバキ属）

展示場には、サザンカ群・カンツバキ群がみごろを迎え、ハルサザンカ群が咲きはじめてきました。また苑内のヤブツバキも咲いています。詳しくは冬の華・サザンカホームページへ。写真はハルサザンカ群の六歌仙です。



②クチナシ（アカネ科クチナシ属）

暖地に生える常緑低木で、6～7月に咲いた花が、今果実になっています(上)。果実は楕円体で稜が6あります。また果実は黄色の染料に使い、無害なのできんとん、沢庵漬などにも用いられます。形は将棋盤や囲碁盤の脚のモチーフとしています。下の写真はオオヤエクチナシの果実です。



③ニシキギ（ニシキギ科ニシキギ属）

山に自生する落葉低木で、今の時期は紅葉も美しく、枝にはコルク質の翼が4条発達し特徴的です。古和名ではオニノヤガラとも言います。枝にコルク質の翼のないものをコマユミとして区別します。



④ユズリハ（ユズリハ科ユズリハ属）

暖温帯の山地に生育する常緑高木で、葉は光沢のある深緑色の表と、粉のように白っぽい裏。長い葉柄は赤色をおびます。古名はユズルハ、中国では交譲木という。苑内には日本海側多雪地方のエゾユズリハがある。



エゾユズリハ

